

第 4 章 書面調査事例

書面調査事例 目次

北海道	帯広市立帯広啓西小学校	38 頁
青森県	上北郡十和田湖町立奥入瀬小学校	38 頁
岩手県	紫波町立上平沢小学校	39 頁
山形県	金山町立明安小学校	39 頁
秋田県	小坂町立小坂小学校	40 頁
茨城県	取手市立取手小学校	40 頁
栃木県	栗野町立栗野中学校	41 頁
埼玉県	都幾川村立明覚小学校	42 頁
神奈川県	秦野市立しぶさわ幼稚園	43 頁
富山県	大沢野町立小羽小学校	43 頁
石川県	羽咋市立粟ノ保小学校	44 頁
福井県	武生市立の小・中学校 (21校)	44 頁
山梨県	韮崎市立韮崎小学校	45 頁
長野県	上松町立上松小学校	45 頁
岐阜県	高山市立南小学校	46 頁
静岡県	島田市立島田第一中学校	47 頁
愛知県	新城市立庭野小学校	47 頁
三重県	大宮町立大宮小学校	48 頁
滋賀県	永源寺町立山上小学校	48 頁
京都府	京北町立京北第一小学校	49 頁
大阪府	柏原市立堅下小学校	50 頁
兵庫県	上郡町立赤松幼稚園	50 頁
奈良県	川上村立川上小学校	51 頁
和歌山県	龍神村立虎東中学校	52 頁
岡山県	勝山町立勝山小学校	52 頁
広島県	呉市立川尻小学校	53 頁
山口県	田万川町立田万川中学校	53 頁
香川県	さぬき市立鶴羽小学校	54 頁
愛媛県	久万高原町立父二峰小学校	54 頁
高知県	高知市立大津小学校	55 頁
福岡県	犀川町立伊良原小学校	55 頁
佐賀県	脊振村立脊振中学校	56 頁
長崎県	対馬市立豊玉小学校	56 頁
宮崎県	日南市立吾田東小学校	57 頁
鹿児島県	鹿屋市立大始良小学校	58 頁
沖縄県	南大東村立南大東小学校	58 頁

※書面調査事例の内容は平成 16 年 12 月現在のものである。

概要

児童数 501名 学級数 17クラス 保有面積(校舎) 6,115㎡ 家具種別 机・いす
 木材の樹種 たも 導入年度 平成14年度

1. 導入の考え方

校舎の改築に合わせ、全学年新JISサイズの木製机・いすを普通教室に導入した。ぬくもりあるの木の机・いすの導入(潤いのある学習環境の創出)、体格にあわせて高さ調節が可能な可動式構造、シックハウス症候群の原因物質を排除(自然系塗料の採用等により木の質感を損なわず、健康及び環境にも配慮)、地場産業の育成・振興等を目的として、リース方式により整備した。

製作及びメンテナンスは、地元の十勝家具建具産業協同組合に依頼した。

2. 使用状況・感想

木製の机・いすは、児童たちにとって重量はあるが、高さ調節ができる可動式である。また、天板の色あせや汚れ、傷がつきやすいという面もあるが、健康・環境に配慮した塗料を使用し対応している。いすの高さ調節用のボルトには、改善の余地があると考えている。



教室で使用されている机・いす



図書室で使用されている机・いす

概要

児童数 23名 学級数 4クラス 保有面積(校舎) 2,119㎡ 家具種別 机・いす
 木材の樹種 杉 導入年度 平成8年度

1. 使用状況・感想

軽くて授業形態を変える際も移動が容易である。また、木製独特の柔らかさ、暖かさを感じさせる。

机は、メンテナンスが遅れると天板がゆるみ外れやすくなる。また、高学年用は固定金具がゆるみやすいため、定期的に点検している。いすは背もたれの感触が良くないため改良が必要である。

天板は傷がつきやすいため、デスクマットを使用して対応している。



机・いす(正面)



机・いす(側面)

概要

児童数 115名 学級数 6クラス 保有面積(校舎) 2,828㎡ 家具種別 机・いす
 木材の樹種 アカマツ・カラマツ 導入年度 平成14年度

1. 導入の考え方

紫波町では、環境への取り組みとして、有機資源循環、森林資源循環、無機資源循環の3つを柱とする「循環型まちづくり」を目指しており、平成14年度に上平沢小学校の校舎を建設するにあたり町産材を使用して建設することにより、森林資源循環を図るとともに、町内の大工で建設することで、経済の循環をも行おうという試みで計画された。

校舎の建設と同時に机、いすについても温かみのある木製にしたいとのことから、町内の木工所において、町産材を使用して、サイズ、強度等、新JIS規格に対応した町独特のものを製作し、県の農林関係の補助事業を導入して整備をした。平成14年度の事業により小学校4校に導入し、さらに平成16年度事業により2校に導入を進めている。



机・いす(後面)



机・いす(側面)

2. 使用状況・感想

導入して間もないこともあり、現在定期的なメンテナンスは行っていないが、今後必要になってくると思われる。

概要

児童数 72名 学級数 7クラス 保有面積(校舎) 2,195㎡ 家具種別 机・いす
 木材の樹種 ブナ・ラワン合板 導入年度 平成13年度

1. 導入の考え方

木造校舎にふさわしい家具を導入したいということで設計者にも協力してもらいながら納入業者に机・いす等を研究開発してもらった。家具の導入に際しては、教職員と何度も打合会を実施した。

2. 使用状況・感想

木製家具を使うことにより、ぬくもり、香り、柔らかな感触、スケール感、リズム感などにより、子供たちに心の安定をもたらしている。

導入した机・いすが床に傷を付けるため、机・いすの底板にフェルトシートを貼って対応している。



机・いす(側面)



机・いす(後面)

概要

児童数 267名 学級数 13クラス 保有面積(校舎) 4,586㎡ 家具種別 机・いす
 木材の樹種 杉間伐材 導入年度 平成14年度

1. 導入の考え方

ぬくもりのある机で学ばせたいという考えから、秋田県の「木の香る街づくり事業」を活用し、地球環境にやさしい材質である秋田県内の木材を使用した。このことにより、子ども達に、ものを大切にする心を育成し、やさしい心の教育に繋がっている。

2. 使用状況・感想

全校生徒が、個人用として使用している。木のぬくもり、あたたかさ、やわらかさを通して、子ども達に優しい心や大切に扱おうとする気持ちを持たせるいい家具であると考えている。材質は木目を生かした大変軽い造りで、移動が容易である。そのため、授業中の机を合わせて作業を行いやすいことが大きなメリットである。また、机といすは床と接している部分が木製のため、移動時の音が大きくなるということがよい。木と木をつないでいるネジが使用している間に緩むので、定期的な点検が必要であるが、児童に緩んだらすぐ教えるように指導しており、主事が対応している。また、乾燥が原因と思われる天板のつなぎ目が広がったという机については、下敷きを敷いているので使用には問題がない。修繕については、今後ネジの締め直し等業者等の定期的なメンテナンスが必要と考える。



机・いす



机・いす(側面)

概要

児童数 461名 学級数 15クラス 保有面積(校舎) 5,822㎡ 家具種別 テーブル・いす
 木材の樹種 桧 導入年度 平成13年度

1. 導入の考え方

平成13年度の取手小学校改築に伴いランチルームが施設拡大(160人)され、平成8年度に茨城県の「県産材活用対策事業」を利用し、テーブル12卓・いす100脚を購入した。また、不足分のテーブル7卓・いす60脚についても、茨城県の「地域材利用促進総合対策事業」を利用して整備した。

2. 使用状況・感想

天然素材の持つ暖かさと香りは、児童に安らぎを与え、望ましい集合生活、児童の心身の健康を増進し、食事のマナーを身につける場所として随時利用している。木の重量感・質感が食事する場としてふさわしく、子供たちも喜んでいる。いすの高さも、テーブルに合っていて、席についたときに木の温もりを感じる。重さがあるので、配置換え等しにくい点はあるが、その重さゆえ、子ども達が食事をする際に動かないという点で重さも長所といえる。クラスや学年での食事会、祖父母学級・地域の老人クラブとの交流(ふれあい給食会)等の食事会でも利用している。



テーブル・いす(遠景)



テーブル・いす(近景)

1. 導入の考え方

統合栗野中学校の設立にあたり、統合準備委員会を設け、数々の課題を検討したが、校舎全体を木質系で調和させることを基本設計とし、校舎全体について、床に栗産の桧の緑甲板、壁には杉の羽目板を使用することとなった。それに併せて、使用する生徒の机・いすも木製とする方針が決定された。

時を同じくして、栗野町商工会青年部木材部会が、地元産木材を使用した中学生の生徒用学習机・いすの開発に成功し、その強度試験等の結果も踏まえ、地元産材を使用した木製学習机・いすの導入を決定した。さらに栃木県の「木のぬくもり教室整備事業」の補助を受け、3ヶ年計画で統合中学校の開校に合わせ、平成15年度において、3学年分全てを木製学習机・いすとした。

特に配慮した点は、中学生が使用するという点で、強度について幾度か設計変更を求め、日常の使用に耐えうる強度を確保した事である。

2. 使用状況・感想

木製の学習机は、従来の金属を使用した机・いすと比較し、温かみをもつ反面、やや軟らかい特徴を持っている。したがって、使用に際して生徒に、丁寧に扱うよう指導している。この事は、生活面においてのやさしさを育む教育の一環となっており、教育面においても、木質系の家具を使用しているという利点を生かしている。

また、生徒の感想を聞いたり、実際に手で触って見ると判るが、木の持つ温かみが伝わってきて、使用していて心地がよい。

耐久度については、導入前に十分な強度試験を行っているため、通常の使用については問題点は見当たらない。

前述したように、材質が柔らかな面があるので、卒業生の使用した机は、天板表面が傷んだもののみ天板を交換して新1年生に貸与している。(在学中は、3年間を通じて、同じ机・いすを使い続ける。)



机・いす



机



いす



木製教卓

概要	児童数 332名	学級数 14クラス	保有面積(校舎) 3,479㎡	家具種別 机・いす・その他
	木材の樹種 桧	導入年度 平成14・15・16年度		

1. 導入の考え方

1日の大半を学校で過ごす子どもたちをよりよい環境の中で育てたいと考え、平成14年9月、小学校校舎内装に県産材を利用した木質化工事を行った。

同時に木製の児童用ロッカー、教師用棚、掃除道具入れ、下足入れを導入した。そして、小学校校舎の木質化を通して子どもたちに「木のよさ」を体感してもらうと共に、教員や保護者、来校者等にも同様に木材が環境や健康にやさしい素材であることを知ってもらい、木材の需要を高め地域林業の振興を図った。

平成15年8月には、木製机について、「木の村都幾川にふさわしい」「木は傷つきやすいがそれが逆に物を大切に作る気持ちが育つ」との考えから、2学年分130セット(机・いす)を購入した。子どもたちが「マイ デスク」という愛着を持ち大切に使用するように、8月の土・日曜日を利用して親子で組み立て作業を実施した。平成16年8月には残りの4学年分220セットを購入し親子での組み立て作業を行った。

なお、木製机・いすの導入に当たっては、以下の点を基本とした。

桧を使用すること。

児童の成長に合わせて高さの調節のできる機能を有すること。

児童の整理用ケースが収納できる大きさであること。

日常の手入れが容易であり、耐久性に優れていること。

分解再生処理が可能であること。

天板等のサイズは新JIS規格であること。

2. 使用状況・感想

夏期休暇中に保護者と児童と一緒に机・いすを組み立てたものを使用するので、愛着をもち大切に使用している。

進級しても、高さ調節ができるので、組み立てた机・いすを持ち上げていき6年間の学校生活で使用することができる。

木のぬくもりが児童に伝わり好評である。導入する以前のものとは比べ天板が広くなり、教材等を机の上に余裕を持って置くことができる。導入する以前のものとは比べ重量が増し、低学年児童にとっては、移動が大変になった事もある。また、毎日掃除等で移動するため、机・いすのネジが緩みやすいため、定期的な点検を行っている。



机・いす



児童用ロッカー



教師用棚



掃除用具入れ

概要

園児数 181名 学級数 6クラス 保有面積(校舎) 1,546㎡ 家具種別 テーブル・いす
木材の樹種 桧 導入年度 平成14年度

1. 導入の考え方

このテーブルといすは、地域住民から寄贈されたものである。

2. 使用状況・感想

この家具は、空スペースや絵本の部屋に設置することにより、腰掛けて絵本を見る時などに利用している。

テーブルは季節の花をおいたりして温かみを出す雰囲気作りにもなっている。



テーブル・いす



いす

概要

児童数 14名 学級数 3クラス 保有面積(校舎) 1,322㎡ 家具種別 机・いす
木材の樹種 杉 導入年度 平成14年度

1. 導入の考え方

机・いすの更新にあたり、富山県材の利用促進と木の良さの普及啓発を図ることを目的とした「地域材活用施設整備事業」について、林務担当課より紹介があり導入を検討した。当該校は、中山間地域の小規模校であり、また木造校舎であることから、木製机・いすとの調和もとれると判断し、導入を決定した。

全学年への導入を図るため、低学年用(標準身長105cm~)と中学年用(標準身長135cm~)の2種類とし、低学年用を8組、中学年用を10組導入した。

2. 使用状況・感想

自然素材である富山県産杉を使用した机・いすを使用することで、児童が木材の温もりのある手触りを感じることができ、木造校舎と一体感のある雰囲気が作り出されており、児童、教諭から好評を得ている。

一方、杉の間伐材を利用した製品であることから、机の天板の強度について、改良の余地があると感じている。



机・いす



授業風景

概要

児童数 106名 学級数 7クラス 保有面積(校舎) 2,463㎡ 家具種別 机・いす・教卓
 木材の樹種 桧・カバザクラ 導入年度 平成13年度

1. 導入の考え方

木製机・いすの導入のきっかけは、木造校舎の粟ノ保小学校を改築する際に、木造の校舎にふさわしい木製の机・いすを採用した。木の温もり・柔らかさを活かし、豊かな心を育む環境づくりに配慮し、子どもの手に触れるところは極力、木製にしたいと考えた。

塗料については、自然塗料を採用し、シックハウス症候群の対策を行った。

机・いすは、6年間使えるよう高さ調節付きとして、ものを大切にすることを期待した。また、1・2年生のいすについては、体格が小さいため座面を切り詰めて小さくした。

2. 使用状況・感想

木の温もりがあり、木造の校舎に調和している。机上も広い。



机・いす



教卓

概要

児童生徒数 6,903名(武生市内) 学級数 237クラス(市内)
 保有面積(校舎) 116,772㎡(市内) 家具種別 机・いす 木材の樹種 杉(天板:ゴム集成材)
 導入年度 平成14~16年度

1. 導入の考え方

JISの規格変更に合わせて、小中学校の机・いす約7,000台を入れ替えることになった。子ども達にとって木材特有の温もりと潤いのある学習環境が望ましいことから、木製の机・いすを導入することとなった。

林業振興・間伐材の利用促進のため、天板以外の材料として地元産の杉間伐材を使用することとなった。天板は、当初国産ぶな材を使用したが、ぶな材の保護に伴う資材費値上がりのため、ゴムのリサイクル材に切り替えた。製造は、地元の家具工場で生産している。

机・いすの使用については、教職員・市職員(教育委員会・工業試験場等)からなる検討委員会を組織し、県外の家具やJIS規格を参考にし、協議を重ね、武生市の独自の仕様(1号~7号)を決定した。事業は、平成14年度に開始し、16年度末に終了する予定である。

2. 使用状況・感想

木製机・いすは、普通教室用である。児童生徒からは木の温もりが感じられ、教室が明るくなったと好評である。初期に導入したいすの一部にがたつきが生じたため、L型金具で補強するような仕様に変更した。



机・いす(背面)



机・いす(側面)

概要

児童数 390名 学級数 15クラス 保有面積（校舎）5,685㎡
 木材の樹種 カラマツ・桧 導入年度 平成16年度

家具種別 机・いす・ロッカー

1. 導入の考え方

校舎改築に伴い、各教室内に導入する備品を検討し、その中で校舎の腰壁等に県産間伐カラマツ材を使用していること等から、出来る限り県産カラマツ材を使用した木製家具を導入したいという意向が設計者、市、学校にあった。家具選定については、カタログ、パンフレットの他、メーカー数社のデモンストレーションや展示等で現物の確認を行い、品質についても安全性・耐久性・シックハウス症候群対策適合等を条件に選定・契約を行った。木製家具の導入について、韮崎市では計画的に整備を行っており、導入済みの他3校と同等品を導入した（桧材）。また、韮崎小学校建設構想委員会からも木製家具や内装への木材使用の指示があった。



机・いす



ロッカー

2. 使用状況・感想

児童は6年間同じ机を「自分の机・いす」して使用しているが、日常生活の中で傷がつくことは避けられないことから、天板は数年に一度表面を削って化粧直しを行っている。このようなメンテナンス費用についても必要である。子どもたちは木製家具について、木の香りがよい、温かみがあると好意的な意見が多い。木材特有のゆがみや耐久性について、どの程度影響があるのか検証が必要であると考えている。清掃については、日常の清掃はカラ拭きが主となるため、専門業者によるメンテナンスも必要である。

概要

児童数 312名 学級数 11クラス
 導入年度 平成15・16年度

家具種別 机・いす

木材の樹種 桧

1. 導入の考え方

上松小学校は、昭和63年に温かみのある教育環境をつくるために、内外装に木曽五木などの木材を使用して改築した。

「植林・育樹の大切さ」「環境問題」「木の特質の学習」「木材の町である上松町」「地場産業の活性化」等を考慮し、木曽桧の学習机・いすの購入を計画した。導入にあたり、林業改良指導員の指導で森林に関する学習を行った。また、机・いすが組み立て式であることや6年間大切に使用してもらうために、机・いすの製作には、親や祖父母が参観日に協力したり、高学年が低学年の面倒を見て、組み立てた。木曽桧のぬくもりは、豊かで優しい感性を育てくれるものと期待している。導入時の仕様としては、「高さ調節機能があり、低学年でも扱える重量であること。」「丈夫で木の特性を活かしたデザインであること。」「天板は無垢材であること。」等を考慮した。



教室で使用されている机・いす



机・いす

2. 使用状況・感想

地元の木曽桧を使用していることから香りや柔らかい感触が子ども達に安らぎを与え、落ち着いた教育環境となっている。また、天板の感触を楽しんだり、掃除時には、友達と力を合わせて運ぶなど、優しい気持ちが育まれている。そして、学習環境としては、教室が明るくなり良くなった。

概要	児童数 487名	学級数 18クラス	保有面積(校舎) 5,409㎡	家具種別 机・いす・その他
	木材の樹種 ナラ、杉、シナ合板、ランバー合板、カエデ合板			導入年度 平成14～16年度

1. 導入の考え方

校舎の全面改築を行うにあたりプロポーザルコンペを実施した。コンペで提案された高山市内の伝統的民家の木造・木屋組の豊かな空間を校舎に取り入れることで、児童の生活空間をより豊かなものにするとの意見が採用された。また、学校用家具については、この空間に調和させるために、木製家具の導入が決まった。

平成10年7月23日に中小企業、下請け対策(緊急雇用対策)として高山市の全校(小学校10校・中学校4校)について普通教室の机・いすの木製化計画を検討し、平成10年度から3カ年間で6,300セットを導入した。導入にあたっては、JIS試験に合格したものと試作品からデザインの決定などを実施し導入した。その後、樹種もスギ間伐材からブナ及び桧の間伐材に変更しており、14年度から16年度まで少人数指導用などとして各小学校に30セット、各中学校に50セットを導入している。平成15、16年度に岐阜県の「学童机・いす導入促進事業」により導入する予定としていたが、ナラ材は県産材の間伐材が少ないため、平成16年度は圧縮材を使用する予定である。今後も少人数指導用として導入する計画がある。

家具選定の基準としては、木造校舎に調和することと共に、使い勝手などを学校側で検討し、設計会社が設計を行った。今後も木製家具の導入に当たっては、改築、増築において、木造建物にする場合等には、調和を考えて木製家具にすることを考えている。

2. 使用状況・感想

ぬくもりのある木製机・いす及び家具で勉強することで心にゆとりが出て子供たちがやさしくなり、飛騨の匠が作った机・いす・家具なので物を大切に扱える子どもが増えた。また、ぬくもりを感じるため情操教育の面での効果が期待できる。自然の木のよさが豊かな空間と一日いても疲れな居心地良さを与えている。

間伐材を利用した机・いすは、経済効果に優れているが、スチール製に比べ、メンテナンス費用が割高になる点について、今後検討が必要である。



机・いす



図書室カード入れ



家庭科室



図書室書架

生徒数 517名 学級数 15クラス 保有面積（校舎）7,097㎡
 家具種別 いす・カウンター・作業台・ロッカー 木材の樹種 ナラ・ブナ・ラワン
 導入年度 平成15年度

1. 導入の考え方

島田市は木都とよばれるほど木材産業が盛んな地域である。近年環境保全の立場からも公共施設への木材利用を推進しており、本校改築事業においても積極的に木材を使用している。こうした中、家具の導入にあたっては、地元木材協同組合へ発注した。

2. 使用状況・感想

木質化した教室内装と調和し、暖かみのある学習環境を提供している。また、視覚・嗅覚・触覚などさまざまな感覚器官を通して、木が人に与えるといわれている多様な効果とともに、生徒が木に親しむことにより、将来的に木材利用が推進されることを期待している。



木工室作業台



更衣室ロッカー

児童数 67名 学級数 6クラス 保有面積（校舎）1,969㎡ 家具種別 机・いす
 木材の樹種 桧 導入年度 平成15年度

1. 導入の考え方

木の机といす整備事業は、木の温もりや香りなどのすばらしさを再認識し、地元の三河材を活用して産業振興を図るため実施した。今回の導入は、モデル事業として導入したものであり、児童や学校に改善点など使用状況を聞いて検討材料にし、今後はモデル校を増やして、市内の全小中学校へ導入していく予定である。

机・いすの規格は、日本工業規格（JIS S 1021（学校用家具-教室用机、いす））による小学校児童用を対象とし、木材には桧の三河材を使用し、机・いすの選定は選定委員会でおこなった。

2. 使用状況・感想

児童の感想は「机が広くて教科書とノートが置きやすい」「しっかりしている」「木の香りがする」「いすも座りやすく気持ちがいい」など概ね良好な回答が多く、また教師も「まず教室に入ったときの木の香りがいい」「見た目も温かく優しい感じがする」などと好評であった。

使用状況（改良点、メンテナンス、修繕等）については、導入して間もないため現在、調査中である。



机・いす



授業風景

概要

児童数 122名 学級数 6クラス 保有面積(校舎) 3,008㎡ 家具種別 机・いす・その他
 木材の樹種 桧・杉 導入年度 平成14年度

1. 導入の考え方

木にふれ、木のぬくもりを感じることで、児童の情緒教育に役立つとともに、校舎の壁等に木をふんだんに使用することから、児童の机・いすをはじめ図書室の机・いす、書棚や校舎内の家具類もできるだけ木製にした。

児童の机の天板は改定されたJIS規格に対応した規格とした。特に児童の机・いすの強度には注意し、検査機関での強度試験も実施した。材料は、地域材と県産材を使用した。



机・いす

2. 使用状況・感想

机・いすは通常の授業に常に使用されているが、児童は、木のぬくもりに触れとても大切に使用している。内装に木をふんだんに利用し、机・いすも木製であることで、教室の雰囲気もたいへん暖かく児童は落ち着いて授業を受けている。

児童の机・いすは一人が6年生まで使用するのので、JIS規格の高さを基準に児童の成長を考えると調節の段階を増やすか、もともと違う高さのものも準備する必要がある。

メンテナンスは定期的に行っていないが、6年生の机・いすを新1年生に回すときに天板を磨いている。



児童用ロッカー

概要

児童数 239名 学級数 11クラス 保有面積(校舎) 4,157㎡ 家具種別 机・いす
 木材の樹種 桧 導入年度 平成16年度

1. 導入の考え方

入札において業者を決定し、その後、教育委員会と学校、業者の3者で協議し机及び、いすの製作に入った。

使用時期については、校舎整備時の導入であったため、2学期からの使用となった。

2. 使用状況・感想

子どもたちは、温かみがあって非常に気に入っている。

低学年にとっては移動時に少し重たいようであるが、個人の机として大切に使用するよう指導している。普通教室で使用している。

メンテナンスや修繕については、PTAや団体等のボランティアにより行っていくこと計画をしている。特に天板については、柔らかいため、定期的なかんながけ等が必要であると思われる。



机



いす

児童数 153名 学級数 7+1クラス 保有面積（校舎）3,381㎡
家具種別 机・いす・テーブル 木材の樹種 桧 導入年度 平成15年度

1. 導入の考え方

家具導入に際しての検討会等は設置していないが、教育委員会担当課と学校代表者によって検討を行った。

家具の発注に際して特に配慮した点については、地元材を使用した造りとし、食堂（ランチルーム）のテーブル・いすについては、児童の使いやすさを考慮した大きさ・高さとした。今回の木製家具の購入は、校舎整備の関連で整備を行い、町の基幹産業である林業のシンボルとなる施設としての一面を持たせるため、基本構造を木造として計画し、床材（桧・OAフロア）と壁材（杉）に調和する家具として木製家具とした。

導入した机は、端材の活用をコンセプトとして開発された製品であり、新たな観点の木材使用としても注目されている。また、材料コストの削減による低価格の実現により本町林業振興の一助となることを期待している。また、今回の机・いすは、改定された新JISを満たしている。



机・いす（遠景）



机・いす（近景）

2. 使用状況・感想

使用した感想については、とても温かみのある製品で、日々気持ちよく使用している。いすの形状によるためか、正しい姿勢で授業を受けている。

重量はスチール製に比べやや軽量と感じ、よく手に馴染むので、掃除等での持ち運び移動時に滑ることはないが、移動時に持ちにくく、移動範囲が室内移動程度に限定される。また、屋外での使用には向かないので、グラウンドでの行事で別のいす等を準備することが必要になった。

導入した家具は、木造校舎とともに木の香りが漂い、落ち着いた雰囲気となっている。机にかけたかばん等の接触音がせず、スチール製と比べて静かであるが、成長の著しい時期に使用するため、高学年（特に6年生）の児童の中には、サイズ調整の範囲を超える児童があった。

また、木口や接触が頻繁な部分に手垢等による汚れが目立つ事が気になる。



テーブル（遠景）



テーブル（近景）

概要

児童数 678名 学級数 21クラス 保有面積（校舎）5,123㎡ 家具種別 机・いす
木材の樹種 ナラ 導入年度 平成15年度

1. 導入の考え方

既設の机・いすが木製であり、図工室用として学校の要望もあり、木製の木工室作業台を導入した。

2. 使用状況・感想

図工の授業の中でも、木の感触を大切にして、木の良さを児童に経験させている。

冷たくなく温かさがあり、分厚くてどっしりしているので作業がしやすく、木そのものなので、滑りにくく工作もしやすい。



木工室作業台



木工室作業台（近景）

概要

園児数 25名 学級数 2クラス 保有面積（校舎）591㎡
家具種別 机・いす・服掛け・本棚・ベンチ 木材の樹種 不明 導入年度 平成14年度

1. 導入の考え方

園舎が木造と土壁を基本としているため、家具も木製品となるように努めた。園児の体にやさしい材質と、あたたかみやぬくもりが感じられる家具を選択した。園児の怪我防止にも木製品は安全性が高いと考えた。

本棚とベンチを一体化して「絵本の部屋」が幼児の憩いの場になるよう試みた。

2. 使用状況・感想

いす・机・服かけなどは園児に関わりが深く、日常的に使用している。木製品が持つぬくもりが園舎全体に感じられ、落ち着いた雰囲気の中で生活が送れている。



本棚とベンチ



服掛け

児童数 76名 学級数 7クラス 保有面積（校舎）2,347㎡
家具種別 机・いす・テーブル・ベッド 木材の樹種 杉 導入年度 平成13～16年度

1. 導入の考え方

木にはぬくもりがある。熱伝導率が低いから、触った自分の手のぬくもりをそのまま感じることができる。木の香りには、気分を和らげたりストレスを解消する効果があり、防ダニや防カビに効果のあるものもある。また、木の自然な木目は、視覚的にも“なごみ”や“あたたかみ”を感じさせる効果がある。上記のように木の良さには根拠があり、木製の家具導入に際して職員会議で導入を考え検討し、教育委員会への予算要求をし実現した。

家具の発注については、学校内で使うものであり、児童が使用し安全なものを第一に考えお願いをした。

木材の利用促進と地域の林業振興を考慮し、学校近くにある「川上村体験実習館」に発注した。学校の実情も説明し、いろいろとお願いしながらすばらしいものを造ることができた。

2. 使用状況・感想

全体的に、天然の美しさや温かさがあり、色が柔らかくて、周りのものと調和がとれている。全てが手作りのため、他に同じものが無く個性的であり、使用していると愛着がわいてくる。柔らかくまた温かく感じられるのか、学習の時などに子ども達も喜んで使っている。使い込むほどに木の風合いがでて、味わい深いものとなっていて、安らぎや落ち着きなどの癒しの効果をもたらしてくれる。

玄関にあるテーブル・いすについては、玄関にあることにより、少し座って話をしたり、また本を読んだりすることができ、子ども達の憩いの場となっている。玄関ホールの隅にあり、コーナーを利用したいいすや、三角テーブルがユニークで、用事で来た保護者も利用している。

保健室の机・いすについては、落ち着いた雰囲気の中で、仕事ができることと柔らかく、かつ温かい感じがして大変使いやすい。また、ベッドは、スチールのものより暖かさが感じられ、精神的にも落ち着き身体を休めるには適している。

音楽室のいすは、全校児童が使用しており、低学年にも合う大きさで、使いやすい。背もたれの所に木製の音符が作られており、音楽室らしさが感じられるとともに、子どもたちはドレミの順にならべたりしながら大変喜んで使っている。

図書室の机は、図書室の畳スペースに置かれているため、畳に座ったままの学習や読書に有効に利用されている。図書委員会の話し合いや、作業にも大いに活用されている。正方形と半円テーブルを離したり、組み合わせたりして使用できるので便利である。



玄関にあるテーブル・いす



保健室の机・いす



ベッド



音楽室のいす



図書室の机

概要

生徒数 85名 学級数 3クラス 保有面積(校舎) 2,000㎡
家具種別 テーブル・本棚・展示ケース 木材の樹種 杉 導入年度 平成16年度

1. 導入の考え方

林業の村を標榜する龍神村にあつては、鉄筋コンクリート造で建築された校舎等の内装を木質化し、やすらぎの教育環境づくりを進めてきた。図書室のテーブル、ホールの本棚・展示ショーケースとも杉の無垢材を使用した特注品であり、木の良さを伝えている。木製学習机・いすもその一環として、年次的に整備してきたものである。

2. 使用状況・感想

図書室閲覧テーブルは、昼休みや放課後等生徒自ら読書を楽しむ場として木製の家具はぬくもりを与えてくれる。

本棚、展示ショーケースは、昼休みに生徒たちの憩いの場となっている玄関ホールに設置してある。本棚には、多様な情報の雑誌や本があり気軽に見ることができ、その横には虎東中学校の過去の栄冠を記した賞を陳列している。木製には、従来のスチール製、合板天板の学習机・いすにはない温かみがある。

改良が必要な点については、いすの背もたれの部分が曲線になっていないため、少し違和感がある。



図書テーブル



本棚・展示ショーケース

概要

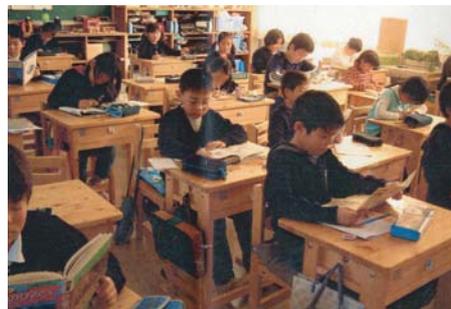
児童数 295名 学級数 14クラス 保有面積(校舎) 3,825㎡ 家具種別 机・いす
木材の樹種 桧 導入年度 平成8年度～16年度

1. 導入の考え方

県産材の利用拡大を図り、「木材の町 勝山」にふさわしく、地域の教育にとって格好の教材でもある県産材を使用した机といすを勝山町内全ての小学校に配備する。

2. 使用状況・感想

手触りがよく、暖かい感じがする。メンテナンスも特に必要なく丈夫であり、子供たちも丁寧に使ってくれる。「木材の町 勝山」のイメージに合っているが、重量が重いことや、高さの調節がないため、体の成長に対応できないことについて、今後検討する必要があると思われる。



教室で使用されている机・いす



机・いす

概要

児童数 531名 学級数 18クラス 保有面積（校舎）6,184㎡ 家具種別 デン
 木材の樹種 シナ合板 導入年度 平成13・14年度

1. 導入の考え方

校舎の建設前から校舎の建設に関わるアドバイザーを外部に委託しており、家具の導入に関しては、アドバイザー・設計者と行政・学校と協議を重ねながら選定を行っており、特に検討委員会は設置していない。

選定基準は定めてないが、安全性や機能性、校舎との調和、校舎の内装仕上げ材との調和、子どものスケールに合わせた家具を選定した。

2. 使用状況・感想

デンは児童にとって、秘密基地、隠れ家、押入れの中といったような空間として存在している。友達とおしゃべりをしたり、悩みを話したり、あるいは一人で静かに考えたりする場として使われている。

重量はかなりあるが、底面に車がついているので、移動しやすく、オープンスペースの空間に変化を持たせることができる。



デン（上より）



デン（横より）

概要

生徒数 74名 学級数 3クラス 保有面積（校舎）2,719㎡ 家具種別 机・いす
 木材の樹種 アカマツ 導入年度 平成16年度

1. 導入の考え方

平成15年度に町内2校の中学校を統合、新校舎を改築整備した（平成15～16年度）。新しい校舎は、教科教室型とし、学校建設研究委員会を設置し、保護者、教員、同窓会、公募、行政が関わり、50回程度のワークショップを重ねて、設計の質を高めていった。それぞれの教科が専用の教室をもっており、生徒はホームベースを拠点として、毎時間教科教室へ移動する。それぞれの教科の特性を十分に考えた空間とした。

備品もそれと同様に、その室をより活かすことができると判断する家具を、提案・審査方式により決定して入れた。特に国語室（文学ゾーン）は、日本の文化・ことばを大切にする学科でもあり、それを十分に味わって、積極的に学習に臨んでほしいという気持ちを込めて、地域の松材を使用した机・いすを導入した。同様に特別支援学級についても、やすらぎ・リラックスした気持ちをもって学習に専念できるであろうと判断し、木製の机・いすを導入した。



机・いす（遠景）



机・いす（近景）

概要

児童数 148名 学級数 7クラス 保有面積（校舎）2,563m² 家具種別 ベンチ
 木材の樹種 松 導入年度 平成14年度

1. 導入の考え方

「津田の松原」の松の一部が松くい虫の影響で枯れてしまったため撤去されたが、有効活用するため一部を加工し、ベンチとして小学校に寄贈された。

2. 使用状況・感想

木のあたたかさ、ぬくもりを感じることができ、児童用玄関のエントランスホールに置かれている。休み時間などには、子ども達のふれあいの場となっている。



ベンチ



ベンチ

概要

児童数 34名 学級数 6クラス 保有面積（校舎）1,553m² 家具種別 机・いす
 木材の樹種 桧 導入年度 平成14年度

1. 導入の考え方

久万高原町は林業の町であり、当校舎は地元産の杉、桧をふんだんに使用した建物で、地域の風土に合い、人に優しく、機能性が高く生活感の豊かな平屋建てとし、自然景観に調和したデザインにより完成した建物である。

そのため、児童が使用する机・いすを木製にすることにより建物との調和がとれるとともに、地域最大の資源である木材の需要拡大促進のため「愛媛県木造公共施設整備促進事業」を活用して導入した。

2. 使用状況・感想

普通教室・音楽室で使用しているが、校舎と調和した木材の机・いすの評判は、児童はもとより教職員、保護者から柔らかく温かみのある感触を有するとともに木の香りにより、潤いのある空間を感じ教育環境づくりの一環として好評である。

今後、町内の他校にも導入していきたい。



机・いす



机・いす（音楽室）

概要

児童数 666名 学級数 22クラス 保有面積（校舎）4,392㎡ 家具種別 机・いす・下駄箱
 木材の樹種 桧 導入年度 平成13年度

1. 導入の考え方

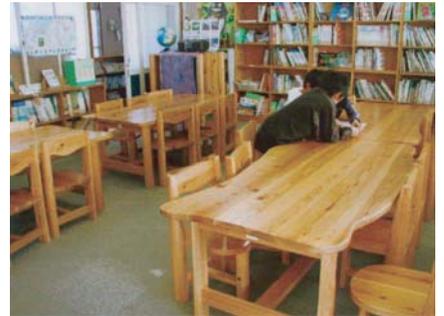
図書室の机・いす等を県産桧集成材で作ることにより、木の持つぬくもりと柔らかさで、暖かみのある部屋となるようにし、より良い読書環境を整え、あわせて子ども達の木に親しむ感性を育てることを目的としている。

導入時は、特にシックハウス症候群の原因である化学物質について注意をし、ウレタンクリア塗装としている。

2. 使用状況・感想

県内産桧で作った教室の児童用机の天板や図書室のテーブル・いす・書架等を導入することにより、「以前と比べて部屋が明るくなった」と評判である。図書室には変形テーブルや葉型テーブルがあるため、休み時間には絶えず子ども達が利用している。

また、一方では、「軟らかいため表面がすぐ凸凹になる」「天板の張替え時、割れたりする」という声も上がってきている。今後は割れてしまった天板等の再利用方法が課題である。



机・いす（図書室）



玄関

概要

児童数 9名 学級数 3クラス 保有面積（校舎）2,165㎡ 家具種別 机・いす
 木材の樹種 桧 導入年度 平成13年度

1. 導入の考え方

家具導入に際しては、検討委員会等は特に設置していない。

家具選定の基準及び発注に際して特に配慮した点については、児童の体格に最適な規格及び使い易い机・いすを選定することを最優先としたことである。伊良原小学校は、既に木造校舎で整備されており、机・いすを木製に換えることにより、教室と融合することができた。

犀川町は、従来より地域材の利用促進に取り組んでおり、その一環として教育関係機関にも導入を行い、普及啓発に努めている。

今後の木製家具の導入計画については、現在、児童数の減少により机・いすの在庫があるため、導入の希望はない。

2. 使用状況・感想

普通教室において、通常の授業に児童が使用している。またグループ活動する際には、対面に配置を変え、グループでまとまって使用している。実際に使用した感想について、児童からは、ぬくもりを感じ、気持ちが落ち着く。教師からは、木の香りがあり、非常によかった。保護者からは、小学校時代を思い出し、昔を懐かしむ声を聞き、非常に好評である。天板が広いので、教科書等が置きやすい。いすの高さ調節は、3段階に切り替えられるが、特に、1年生にも対応可能な低い高さ等の調節機能の増加が望まれる。多少の傷はあるが、修繕までには至っていない。



机・いす



机・いす

概要

生徒数 45名 学級数 3クラス 保有面積（校舎）1,920㎡
家具種別 机・いす・本棚 木材の樹種 杉 導入年度 昭和63年度

1. 導入の考え方

昭和63年度に村制施行100周年記念事業の一環として、中学校校舎建築がされた。林業の村であり、自然を生かした村づくりを推進していたことから、地元材を利用した木造校舎の建築となった。心身共に健全な発達と学力の向上を図ると共に、調和のとれた人間形成の学び舎を目標として、木造校舎整備に合わせて家具についても木製を選定して、木の香りと温かい校舎の建築に努めた。



机・いす

2. 使用状況・感想

木の素材がもつ優しさと柔らかさを活かした机といすを全教室で活用している。

机やいすからは、木の温もりとすがすがしさを感じる。また、木材の調湿作用により、適度な室温を保つことができ、落ち着いて学習することができる。教室が心身共にリラックスさせてくれる空間となっている。



本棚

概要

児童数 126名 学級数 6クラス 保有面積（校舎）1,944㎡ 家具種別 机・いす
木材の樹種 桧 導入年度 平成14年度

1. 導入の考え方

平成16年3月1日の対馬市誕生以前の旧豊玉町の事業であり、豊玉町内の桧の間伐材を使用した児童用机・いすを製作し、豊玉町管内小学校の平成14年度の新入生から使用されている。（現在の1～3年生が使用している。）机・いすは児童の成長に合わせて3段階に調節できるように製作されており、入学から卒業まで同じ机・いすで学べるようになっている。

事業の主旨は、「対馬市豊玉町内の桧の間伐材の消費」ならびに「ものを大切に作る心を育む」、加えて「自然のぬくもり」を体感してもらうことである。平成17年度以降も旧豊玉町管内の小学校5校において、同様の方法で実施する予定である。



机・いす

2. 使用状況・感想

木の暖かみを感じることができ、教室内が明るい雰囲気になっている。スチール製の机・いすに比べて少し重く安定しているので、落ち着いて学習できる。また、自分の机・いすという意識がめばえ、各児童が大切に扱っている。



机・いす（正面）

児童数 548名 学級数 18クラス 保有面積（校舎）4,725㎡ 家具種別 机・いす
 木材の樹種 餂肥杉 導入年度 平成11年度

1. 導入の考え方

林業を取り巻く環境は、木材需要の長期低迷、外材の進出等厳しい環境にある。このような情勢のなかで、日南市内には昭和30年前後に植栽された餂肥杉が、伐採期を迎えようとしていた。そこで、木材の生産量を流通商品化していくため、低迷する木材消費の回復に努める施策を進めた。また、その当時、子ども達が使っていたノートの規格が、B5からA4へ移行し、それまで使用してきた机では、手狭で使いづらくなってきたため、市教育委員会では、机の更新を検討した。

机・いすを廃棄する際、環境に与える影響を考慮して、「地元の企業で、地元の餂肥杉を使った机・いすができないか」ということで、平成11年2月、市内の木材や建具の企業と市で設置した「日南市学校用品餂肥杉利用研究委員会」が発足し、餂肥杉を使った机・いすの導入に向け検討がはじまった。そこで、地元企業による市内の小学校でのモニタリングを実施し、試作品を何度も作り、テストを行いながら、製作された。本市の教育委員会では年次的に導入を行い、新1年生から5年生まで行き届いている。



机



いす

2. 使用状況・感想

餂肥杉の特色として材質が柔らかいため傷が付きやすいことがあるが、それを考慮して天板には、導入当初からデスクマットを敷くことで対処した。

既に5年が経過するが、傷み具合はスチール製と変わらないようである。その理由は、教育現場の先生方が、児童たちに6年間使うものであるから大切に使うことと指導しており、定期的に机・いすの状況を確認し、メンテナンスを行っていることである。さらにPTAによる成長にあわせた机・いすの調整や、地元企業による補修・修繕等のメンテナンスを責任持って行っていることもその理由と考えられる。

様々な問題や故障については、「日南市学校用品餂肥杉利用研究委員会」の木材や建具の企業の委員と市職員がその問題点をどうすれば解決できるのか、または利用しやすいようにするにはどうしたらよいのかを検討し、改良を行っている。

実際使用している児童たちの感想は、「小学1・2年生では机・いすが重たく、持ち運びが大変です。」という一方「木のあたたかみを感じる」「やわらかい」「明るい」「木目が好き」「入学から使用していて愛着がある」等の意見があり、評判は良いようである。



授業風景

児童数 307名 学級数 12クラス 保有面積（校舎）3,318㎡ 家具種別 机・いす
 木材の樹種 杉 導入年度 平成13年度

1. 導入の考え方

21世紀の鹿屋市をにう子ども達が、心身共に健全に育つよう人と環境に優しい木製の机といすを配備する。また、地元産材を活用することにより、林業振興にも資することを目的としている。

2. 使用状況・感想

木のあたたかみを体感できる。児童の体格にあわせ、高さ調節が可能である。1年生から6年生まで、同じ机・いすを使用するため、ものを大事にする気持ちを育むことができる。



机・いす



机・いす（側面）

児童数 112名 学級数 7クラス 保有面積（校舎）1,831㎡ 家具種別 机・いす
 木材の樹種 琉球松 導入年度 平成15年度

1. 導入の考え方

沖縄県内の木材（琉球松）の利用促進による、学習机・いすのセットを紹介された。そこで、学校長を含め教頭、教育委員会で協議して導入を決定した。今後も予算の確保ができれば、中学校にも導入していくことを考えている。

2. 使用状況・感想

琉球松の机・いすは、重みがあり安定しているが、清掃など移動の際に低学年では少し重い。今回は高学年（4年生から6年生）だけの導入を行った。

安定性があり、木材の独特の癒し力があるのか児童の授業を受ける態度が落ち着いたように思える。



机・いす



机・いす（側面）

第 5 章 附属資料

調査協力校一覧

整理 番号	都道府県名	設置者名	学校名	学校の概要		家具種別			家具の概要			補助制度	掲載 頁
				児童生徒 数(人)	学級数 (学級)	机	いす	その他	使用室	樹種	導入年度		
1	北海道	網走市	西が丘小学校	87	6	○	○		普通教室	松	H14		
		帯広市	帯広啓西小学校	501	17	○	○		普通教室	タモノキ	H14		P38
		北見市	相内小学校	120	6	○	○		普通教室	松	H10		
		根室市	落石小学校	39	4	○	○		全教室	松	H8		
		中川町	中央小学校	107	8	○	○		普通教室	松	H14~16		
		帯広市	帯広第一中学校	533	14	○	○		普通教室	タモノキ	H13		
		北見市	相内中学校	71	3	○	○		普通教室	松	H15		
2	青森県	相馬村	相馬小学校	244	8	○	○			杉	H8		
		車力村	車力中学校	145	7	○	○			杉	H9~11		
		十和田湖町	奥入瀬小学校	23	4	○	○		普通教室	杉?	H8		P38
		板柳町	板柳東小学校	140	6	○	○		普通教室	杉	H8		
		十和田湖町	沢田小学校	97	7			○	その他				
3	岩手県	紫波町	上平沢小学校	115	6	○	○		普通教室、音楽室	松	H14	木造公共施設等整備促進事業（やすら木の学校づくり整備事業）	P39
		山形村	繫小学校	3	2	○	○	○	普通教室、その他	杉、松	H13		
4	宮城県	河南町	前谷地小学校	141	7	○	○		普通教室	杉	H16	みやぎ木のやすらぎ空間確保対策事業	P18
		本吉町	小泉小学校	112	6	○	○		普通教室	杉	H15		
5	秋田県	小坂町	小坂小学校	267	13	○	○		普通教室	杉	H14	新しい「木との出会い」推進事業	P40
		小坂町	七滝小学校	69	6	○	○		普通教室	杉	H14		
		小坂町	小坂中学校	160	6	○	○		普通教室	杉	H14		
		小坂町	十和田小中学校	小7 中3	小3 中2	○	○		普通教室	杉	H14		
		平鹿町	浅舞小学校	330	13	○	○		普通教室	杉	H11~14		
		平鹿町	蛭野小学校	48	7	○	○		普通教室	杉	H11~14		
		平鹿町	吉田小学校	168	7	○	○		普通教室	杉	H11~14		
		平鹿町	醍醐小学校	236	10	○	○		普通教室	杉	H11~14		
6	山形県	真室川町	釜淵小学校	62	6	○	○		普通教室	杉	H12		
		朝日町	大谷小学校	117	6	○	○		普通教室	杉	H11		
		金山町	明安小学校	72	7	○	○	○	普通教室、食堂	ブナ	H13		P39
7	福島県	飯館村	飯館小学校	178	7	○	○	○	普通教室	杉	H14、15	木とふれあう学舎づくり推進事業	P20
		平田村	小平小学校	151	6	○	○		普通教室	杉、松	H16		
8	茨城県	取手市	取手小学校	461	15	○	○		ランチルーム	桧	H13	木造公共施設等整備事業	P40
		旭村	旭西小学校	165	8	○	○		普通教室	桧			
9	栃木県	大田原市	奥沢小学校	114	6	○	○		普通教室	—	H15	木のぬくもり教室整備事業	
		黒磯市	高林小学校	97	6	○	○		普通教室	桧	H11~13		
		粟野町	粟野中学校	359	11	○	○		普通教室	杉	H13		P41
		大平町	大平西小学校	419	13	○	○		普通教室	桧	H16		
		塩原町	塩原小学校	91	6	○	○		普通教室	桧	H15		
10	群馬県	伊香保町	伊香保小学校	190	7	○	○		普通教室	桧	H11	子どもと木のふれあい推進事業	
		下仁田町	下仁田中学校	293	9	○	○	○	普通教室	桧	H15		
		群馬県	中央中等教育学校	129	4	○	○	○	普通教室、食堂	桧、ナラ、セン	H15		P22
		群馬県	高崎女子高校	964	24	○	○		普通教室	桧	H15		
11	埼玉県	都幾川村	明覚小学校	332	14	○	○	○	普通教室、昇降口	桧	H14~16		P42
		玉川村	玉川小学校	313	13	○	○		普通教室	桧	H12~15		
		玉川村	玉川中学校	173	7	○	○		普通教室	桧	H15		
		神泉村	神泉小学校	62	7	○	○		普通教室	桧	H12		
12	千葉県	大多喜町	老川小学校	48	6	○	○	○	普通教室、図画工作 室、図書室等	松、ナラ、タモノ キ、杉	H12		P24
		丸山町	丸山中学校	141	6			○	メディアセンター	松	H16		
13	東京都												
14	神奈川県	秦野市	南が丘小学校	639	21	○			普通教室	タモノキ	H16		
		秦野市	しぶさわ幼稚園	181	6	○	○		多目的教育、空ス ペース	桧	H14		P43

整理番号	都道府県名	設置者名	学校名	学校の概要		家具の概要				補助制度	掲載頁		
				児童生徒数(人)	学級数(学級)	家具種別			使用室			樹種	導入年度
						机	いす	その他					
15	新潟県												
16	富山県	大沢野町	小羽小学校	14	3	○	○		普通教室	杉	H14	地域材活用施設整備事業	P43
		婦中町	速星中学校	825	24	○	○		特別教室	杉	H14		
		砺波市	砺波南部小学校	232	9			○	普通教室	タモノキ	H15		
17	石川県	羽咋市	粟ノ保小学校	106	7	○	○	○	普通教室	桧、カバサクラ	H13		P44
		羽咋市	西北台小学校	126	7	○	○	○	普通教室	桧	H15		
		羽咋市	余喜小学校	134	7	○	○	○	普通教室	桧	H16		
		かほく市	大海小学校	135	7		○		図書室	アテ	H15		
18	福井県	武生市	武生市内の小中学校21校	6,903	237	○	○		普通教室	杉、ゴムノキ	H14~16	木とのふれあい環境づくり推進事業	P44
		池田町	池田第一小学校	138	7	○	○		普通教室	杉、桧	H10		
19	山梨県	韭崎市	韭崎小学校	390	15	○	○	○	普通教室、特別教室等	松、桧	H16		P45
		昭和町	常永小学校	337	14	○	○		普通教室	タモノキ	H14		
20	長野県	樽川村	贅川小学校	32	6	○	○	○	普通教室、校長室	ナラ	H8	木の香る学校推進事業	
		樽川村	樽川小学校	98	6	○	○		普通教室、ランチルーム	ナラ	H7		
		上松町	上松小学校	312	11	○	○		普通教室	桧	H15、16		
		東御市	東部中学校	834	24	○	○		普通教室	松	H14		
		軽井沢町	軽井沢西部小学校	289	14	○	○	○	普通教室	ブナ			
		軽井沢町	軽井沢中部小学校	498	17	○	○		普通教室	ブナ	開校時		
		軽井沢町	軽井沢東部小学校	237	11	○	○		普通教室	ブナ			
21	岐阜県	郡上市	大中小学校	162	7	○	○		普通教室	杉	H14	学童机・いす導入促進事業実施要領	
		加子母村	加子母小学校	229	11	○	○	○	普通教室、会議室	桧	H10		
		高山市	南小学校	487	18	○	○	○	普通教室、図書館等	ナラ、杉、カエデ	H14~16		
22	静岡県	森町	森小学校	410	14	○	○		図書室	ナラ	H15		
		春野町	熊切小学校	60	6	○	○		普通教室	桧、杉	H8		
		引佐町	洪川小学校	23	3	○	○		普通教室	桧	H9~11		
		三ヶ日町	尾奈小学校	88	6	○	○		普通教室	桧	H9		
		水窪町	水窪小学校	125	7	○	○		普通教室	桧	H13		
		水窪町	西浦小学校	10	3	○	○		普通教室	桧	H13		
		長泉町	南小学校	663	20	○	○		普通教室	桧	H10~15		
		藤枝市	瀬戸谷中学校	102	3	○	○		普通教室	桧	H14		
		島田市	島田第一中学校	517	15		○	○	図書室、木工室、理科室、更衣室	ナラ、ブナ	H15		P47
		静岡市	森下小学校	395	16	○	○		普通教室	桧	H15		
23	愛知県	新城市	庭野小学校	67	6	○	○		普通教室	桧	H15		P47
		設楽町	設楽中学校	122	7	○	○		普通教室	桧			
24	三重県	伊賀市	青山小学校	675	23	○	○		普通教室	桧	H16		
		大宮町	七保小学校	123	7			○	普通教室、図書室	桧、杉	H12		
		大宮町	大宮小学校	122	6			○	図書室	桧、杉	H14		P48
25	滋賀県	彦根市	城陽小学校	333	13			○	普通教室	—	H14	木の学習机整備モデル事業	
		甲賀市	伴谷東小学校	366	15	○	○		普通教室	桧	H15		
		永源寺町	山上小学校	239	11	○	○		普通教室	桧	H16		
		愛東町	愛東中学校	203	7	○	○		普通教室	桧	H13、14		
		伊吹町	春照小学校	236	9	○	○		普通教室	—	H13		
		マキノ町	マキノ北小学校	35	6	○	○		普通教室	桧	H12、13		
		今津町	今津東小学校	635	21	○	○		普通教室	桧	H13		
		今津町	今津中学校	443	15	○	○		普通教室	桧	H13		
朽木村	朽木東小学校	114	6	○	○			桧	H13				
26	京都府	京北町	京北第一小学校	153	8	○	○	○	普通教室、ランチルーム	桧	H15	木の香あふれる学校環境整備事業	P49
27	大阪府	柏原市	堅下小学校	678	21	○	○		図工室	ナラ	H15		P50
28	兵庫県	相生市	あおぼ幼稚園	139	6	○	○		普通教室	—	H13		
		神崎町	越知谷第一小学校	62	6	○	○		普通教室	桧	H15		
		上郡町	赤松幼稚園	25	2	○	○	○	普通教室、絵本の部屋	—	H14		P50

整理番号	都道府県名	設置者名	学校名	学校の概要		家具の概要				補助制度	掲載頁		
				児童生徒数(人)	学級数(学級)	家具種別			使用室			樹種	導入年度
						机	いす	その他					
29	奈良県	香芝市	志都美小学校	217	7	○	○		普通教室	杉	H16		
		吉野町	吉野北小学校	100	6	○	○	○	普通教室、図書室	桧	H15		
		黒滝村	黒滝小学校	60	7	○	○		普通教室	—	H13		
		黒滝村	黒滝中学校	29	3	○	○		普通教室	—	H13		
		大塔村	大塔小学校・大塔中学校 (小中合築)	小22 中14	小5 中2	○	○		普通教室	ナラ、桧	H16		
		大塔村	大塔小学校・大塔中学校 (小中合築)	小22 中14	小5 中2	○	○		ランテールーム	ナラ、桧	H16		
		川上村	川上小学校	76	7	○	○	○	図書室、音楽室	杉	H13~16		P51
30	和歌山県	金屋町	石垣中学校	65	4	○	○		普通教室	桧	H14、15		
		龍神村	虎東中学校	85	3	○	○	○	図書室、ロビー	杉	H16(机、 いすH9~		P52
		橋本市	橋本小学校	456	19	○		○	普通教室	桧	H16		
		中辺路町	中辺路中学校	81	3	○	○		普通教室	桧	H13		
		熊野川町	熊野川中学校	52	3	○	○		普通教室	桧	H16		
31	鳥取県	関金町	山守小学校	52	6	○	○		普通教室	杉	H12		
		淀江町	淀江小学校	490	20		○		特別教室	ナラ、タモノキ	H12、13		
		鳥取市	若葉台小学校	530	20	○	○		普通教室	桧	H15		P26
		三朝町	東小学校	72	6	○	○		普通教室、校長室	—	H4		
32	島根県	松江市	母衣小学校	430	16	○	○		普通教室	杉	H16		P28
		雲南市	掛合小学校	98	7	○	○		普通教室	—	H10		
		美郷町	大和小学校	107	7				図書室、図工室	—	H15		
33	岡山県	勝山町	勝山小学校	295	14	○	○		普通教室	杉	H8~16		P52
		富村	富小学校	35	4	○			普通教室、音楽室、 視聴覚室	ゴムノキ	H12		
34	広島県	呉市	川尻小学校	531	18			○	オープンスペース	—	H13、14		P53
		三次市	作木小学校	79	7	○	○		普通教室、ランテ ールーム	松	H11		
		廿日市市	平良小学校	588	19	○	○		普通教室	桧	H14		
35	山口県	岩国市	藤河小学校	80	6	○		○	普通教室	ナラ	H16		
		美川町	美川小学校	49	6	○	○		普通教室	桧	H14~16		
		田万川町	田万川中学校	74	3	○	○		国語科室、特別支援 教室	松	H16		P53
36	徳島県												
37	香川県	さぬき市	鶴羽小学校	148	7		○		児童玄関、エントラ ンスホール	松	H14		
		さぬき市	津田中学校	194	7	○			技術室	—	H14		
		さぬき市	鶴羽幼稚園	44	3	○	○		普通教室	—	H13		P54
38	愛媛県	広見町	愛治小学校	56	6	○	○		普通教室	桧	H9~14		
		久万高原町	父二峰小学校	34	6	○	○		普通教室、音楽室、 図工室	桧	H14		P54
39	高知県	高知市	追手前小学校	180	10	○	○		図書室	桧	H14		
		高知市	大津小学校	666	22	○	○	○	普通教室、図書室、 玄関	桧	H14		P55
40	福岡県	犀川町	伊良原小学校	9	3	○	○		普通教室	桧	H13		P55
41	佐賀県	肥前町	肥前中学校	261	9	○	○		普通教室	—	S55		
		脊振村	脊振中学校	45	3	○	○	○	普通教室、図書室	杉	S63		P56
		鎮西町	加唐小学校松島分校	16	複式3	○	○	○	普通教室 資料室	—	H8		
42	長崎県	対馬市	豊玉小学校	126	6	○	○		普通教室	桧	H14		P56
		琴海町	琴海中学校	437	12	○	○		美術室	桧	H16		
43	熊本県	水俣市	袋小学校	273	12	○	○	○	普通教室、多目的 ホール	桧、杉	H13、15		P30
		小国町	蓬萊小学校	71	6	○	○		普通教室	杉	H11		
44	大分県	朝地町	朝地小・中学校	小136 中66	小6 中3	○	○		普通教室	桧	H15		P32
45	宮崎県	日南市	吾田東小学校	548	18	○	○		普通教室	杉	H11		P57
		小林市	東方中学校	87	3	○	○		普通教室	杉	H15		
46	鹿児島県	鹿屋市	大始良小学校	307	12	○	○		普通教室	杉	H13		P58
		出水市	出水小学校	410	13	○	○		普通教室	杉、桧	H15		
47	沖縄県	国頭村	辺土名小学校	210	9	○	○		普通教室	ニレ	H14、15		
		南大東村	南大東小学校	112	7	○	○		普通教室	松	H15		P58

1 6 年度学校用家具に関する調査研究委員会名簿

(五十音順)

委員長

高 橋 鷹 志 早稲田大学人間科学学術院特任教授・日本大学研究所教授

委 員

橋 本 久 幸 (社)全国家具工業連合会 専務理事

細 野 初 男 群馬県教育委員会管理課長

柳 澤 要 千葉大学工学部デザイン工学科助教授 (兼 WG 委員)

横 山 勝 樹 女子美術大学芸術学部デザイン学科教授 (兼 WG 主査)

渡 辺 秀 俊 文化女子大学造形学部住環境学科・助教授 (兼 WG 委員)

文部科学省 (オブザーバー)

宮 浦 祐 一 大臣官房文教施設企画部施設企画課専門官

岩 永 仁 大臣官房文教施設企画部施設企画課指導第二係長

平 川 英 洋 大臣官房文教施設企画部施設企画課指導第二係

社団法人 文教施設協会

勝 山 正 嗣 (社)文教施設協会専務理事

渡 邊 正 雄 (社)文教施設協会常務理事

縄 手 雅 史 (社)文教施設協会研究員